

2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)	ルンビニ州（第5州）バンケ郡において、コミュニティ、郡行政、および中央政府の保健システム強化及びインフラ整備を行なう。 今期事業達成目標： 新生児・小児保健サービスにおける保健医療従事者及び保健医療施設の能力が向上し、コミュニティの住民の間で新生児・小児保健サービス利用への理解が進む。
(2) 事業内容	新型コロナウイルス感染症対策のための全国的なロックダウン措置や、バンケ郡の市町村毎・地域別の規制のために活動に遅れが出た。2020年06月23日付の変更報告提出以後、少人数での研修・ワークショップの実施、可能な範囲内での屋外での実施、参加者や講師らの体調確認、マスクや必要時の手袋の着用、手指消毒および物品消毒を実施することで、予定された活動を事業期間内に完了した。 1. 保健医療施設の整備 1-1: 保健医療施設の修繕 本年度はバンケ郡のカジュラ村にあるソンプール・ヘルスポストと、郡内最西部に位置するナライナプル村のカトゥクイヤ・ヘルスポスト併設の分娩関連施設を修繕した。 建設業者選定のための入札告知前に、カジュラ村およびナライナプル村の担当者とそれぞれのヘルスポスト責任者とも議論を重ね、作業内容やスケジュール、提供されている保健サービスとの調整を確認した。全国紙に掲載した建設業者募集広告による入札を通し、バンケ郡に拠点を置く建設業者が選定された。地元行政と保健医療施設スタッフと調整を重ね、エンジニア及び現場監督が監督指導を行いながら2020年7月から建設作業が始まった。 豪雨等の天候による影響や新型コロナウイルス感染症流行に伴う断続的なロックダウンの影響により作業が中断されることがあったが、2020年12月にヘルスポストの建設作業を完了し、カジュラ村とナライナプル村へ引き渡した。 ヘルスポストを管轄する地方自治体の自主性が向上するようADRAが各市町村へ働きかけ、地元資金により、ソンプール・ヘルスポストには新たな分娩台が備え付けられ、カトゥクイヤ・ヘルスポストには1000Lの給水タンクと宿直室が整備された。両地方自治体は、修繕された保健医療施設の維持管理の役割をADRAから引き継ぐことを表明した。 1-2: 医療資機材の提供 本年度は政府基準に則り、ベリ病院の新生児集中治療室（NICU）に三次医療機関としての役割を果たすために必要な医療機材（新生児用血圧測定器、シリンジポンプ、新生児用診察台）を提供した。引渡し時には、医療機器管理者を含む保健医療従事者らへ維持管理研修を実施した。ベリ病院のNICUの病床数に見合った適切な機材数や患児を安全にケアするために必要な診察台が備え付けられた。 2. 保健サービス提供者の能力向上 2-2: 公的保健医療サービス提供者への技術支援 a. 女性地域保健ボランティア（FCHV）への3日間研修 ①昨年度と同様に、FCHVへ保健省の定める「コミュニティベース新生児・小児疾病総合管理プログラム（以下CB-IMNCI）」指導要綱に沿

った研修を実施した。1年次の「活動2-1 指導者研修」を受講した保健医療従事者らが講師を務め、413名のFCHVが研修を受講した。FCHVらは講義や演習を通し、正しい手洗い方法やカンガルーケア、コミュニティでのカウンセリング、活動記録の書き方等について学んだ。1・2年次に、現時点でバンケ郡内において任命されている全てのFCHVが本事業によるCB-IMNCI研修の受講を完了した。

読み書き能力に課題のあるFCHVもいることから、CB-IMNCIのフリップチャートを使用した。この教材を使用することにより、FCHVの新生児・小児保健に関するキャパシティがより向上され、かつFCHVがコミュニティでの母親グループ会合や家庭訪問等において研修で学んだ知識や技術を効果的に広めることが可能となる。それぞれのFCHVが登録されている施設の保健医療従事者が、各家庭レベルでの新生児・小児ケアに関する知識をFCHVが効果的に広めているかどうかフォローアップしていく。

②本年度は、FCHVへ母子栄養改善研修を行った。FCHVは、出産前後の妊産婦に必要な食べ物や栄養素、新生児や乳児に必要な栄養、母乳の重要性について学んだ。講師は、母子保健に関する研修を受講済みの保健医療従事者が務めた。

新型コロナウイルス対策のため、研修中の調理実習は中止した。申請時にはFCHV789名への研修を予定していたが、1組当たりの研修参加人数を減らし、本年度は385名のFCHVへ研修を実施した。来年度事業期間中に残りのFCHVへ研修機会を提供する。

b. モニタリングによる保健従事者やFCHVへの技術支援

昨年度に引き続き、本年度はソンプル、チサパニ、バンカティ、パワニヤプル・ヘルスポストとバンカトゥワ・プライマリーヘルスケアセンターにて、合わせて95名の保健医療従事者とFCHVの知識や技術をモニタリングした。1年次の「活動2-1①マスターレベル指導者研修」の受講者が保健省の定める基準とチェックリストを用い、ヘルスポストの保健医療従事者とFCHVへそれぞれ質問調査、モデルを使用した手技確認（蘇生法、臍帯処置方法、カンガルーマザーケアなど）、保健医療サービス提供記録（診療記録や保健医療統計データなど）を各2回モニタリングした。なお、2年次中に保健省の定めるモニタリングの実施要綱に変更があり、FCHVは対象外となることが決まった。3年次は保健医療従事者のみにモニタリングと技術支援を行う。

1回目の訪問では、一部の適切ではない手技や記録について指導を行い、不足していた知識や技術をフォローアップし、アクションプランを作成した。2回目の訪問ではアクションプランをもとに、知識や技術が改善されているか確認した。5か所全てのヘルスポストにおいて、前回指摘のあった手技や記録の不備について多くの改善がみられた。しかしながら、データ管理や薬剤の在庫管理における先入先出法には改善の余地があり、今後は管轄する市町村保健部門や州管轄保健事務所が定期的にモニタリングと監督指導の責任を負う他、引き続き3年次にフォローアップを行う。

2-3: 民間保健医療サービス提供者への技術支援

a. 伝統的ヒーラーに対するオリエンテーション

母親たちは新生児や小児の具合が悪くなった際に最初に伝統的ヒーラーに相談しており、特に疎外されたコミュニティやムスリムコミュニティ等において伝統的ヒーラーが活発に活動している。よって、本年度はそれらのコミュニティに属する96名の伝統的ヒーラーにCB-

IMNCI に関するオリエンテーションを実施した。参加した現役の伝統的ヒーラーは公立保健医療施設における新生児・小児保健サービスを理解し、病気の新生児・小児を適切なタイミングで保健医療施設に紹介できるように3年次もフォローアップを続けていく。

b. 民間医療従事者（パリカ・レベル）への研修・ワークショップ

①民間診療所や薬局といった民間保健医療従事者30名に対し、CB-IMNCI に沿った研修を行った。ネパール保健省の定める細菌感染症の診断や治療、低体温症、新生児・小児患児の危険な兆候等の最新の治療ケアの知識および技術を民間保健医療従事者がアップデートし、患者が迅速に適切な治療を受けられるよう、州管轄保健事務所と事業スタッフが講師を務めた。また、民間セクターに各公立保健医療施設でのCB-IMNCI 関連サービスが周知され、民間保健医療施設から上位の公的保健医療施設へ適切に患者が紹介されるよう連携強化を促した。

②計15名の民間診療所や薬局、私立病院に勤める保健医療従事者がワークショップに参加した。それぞれが従事する施設における5歳未満児の症例について参加者間で共有し合い、民間保健医療施設から他の保健医療施設への紹介状況について、州管轄保健事務所とともに確認した。

①研修および②ワークショップ開催後、これらの活動に参加した民間医療従事者の5歳未満患児の他保健医療施設への紹介率の増加が見られた。さらに、所定の報告書を用いて、民間診療所から新生児・小児保健についての適切な報告が市町村保健部門へなされる傾向が見られている。来年次に引き続きフォローアップしていく。

2-4：保健医療サービス改善のためのシステム強化

a. 保健医療施設における保健サービス改善委員会の強化ワークショップ

保健省によって各保健医療施設に設置されている「保健サービス改善委員会」を対象とし、特に新生児・小児保健サービスを中心として、保健サービスの質を改善するためのワークショップを開催した。計10施設100名の委員会メンバーが参加し、各施設の保健サービスに関する課題を話し合った。必要薬剤の在庫管理が不十分であることや、診療記録や保健医療統計データ等の保健医療サービス提供録が適切に記録されていないことが課題として挙げられ、アクションプランに盛り込まれた。保健サービス改善委員会が作成したアクションプランに沿って活動し、市町村保健部門が進捗確認を行い、ADRAも3年次にフォローアップしていく。

b. CB-IMNCI に関する省略語ハンドブック作成

ネパールにおいて初めてとなる、CB-IMNCI を含めた母子保健に関する省略語ハンドブックを保健省家庭福祉局とともに編纂した。ADRA はバンケ郡を中心としたルンビニ州の保健医療従事者へ配布し、今後の省略語ハンドブック改訂や他地域への配布は保健省家庭福祉局が担う。

3. 保健医療施設の運営能力向上

3-2：コミュニティから郡レベルの各施設の事務運営部門強化

a. 保健施設運営管理組織の能力向上ワークショップ

昨年度に引き続き、24か所の保健医療施設とそのサービスの運営管理を担う、保健医療施設運営管理委員会のメンバー227名を対象にワークショップを開催した。ワークショップでは講師によるファシリ

テーションのもと、委員会の役割について再確認した他、CB-IMNCIの保健医療サービスについて理解を深め、各々の担当施設の維持管理状況を委員会メンバー自らが振り返った。委員会メンバーはそれぞれの産前産後健診室と分娩室、外来診察室、倉庫等を視察し、施設や医療資機材、医薬品の維持管理状況について確認した。それらの振り返り後にアクションプランを作成して修繕・修理が必要な箇所、不足している資機材、所属する保健医療従事者やFCHVに必要な研修について確認し合った。

b. 総務・会計担当の管理能力研修

州管轄保健事務所、ペリ病院、パリカ保健部門の運営管理者 15 名にサプライチェーンやデータ管理、記録および報告システムの維持改善について研修した。ルンビニ州保健局職員が研修講師を務めた。研修では母子保健分野のロジスティクス管理の現状を確認し合った他、2020 年より導入され始めているオンライン上の記録および報告システムについても説明された。

4. 住民の新生児・小児保健知識の向上

4-1: コミュニティにおける啓発活動

a: ムスリムコミュニティへの啓発

① 男性グループのオリエンテーション

疎外されたコミュニティやムスリムコミュニティ等の男性 45 名に向け、新生児・小児保健に関するオリエンテーションを実施した。オリエンテーションに参加した男性たちは自らのコミュニティにおいて新生児・小児保健の啓発活動を開始しており、妊娠婦や子どもが適時に保健医療施設を受診するよう促している様子が確認された。

なお、予定されていた 5 組のオリエンテーションから、変更報告にて本年度は 3 組のみ実施することとした。残りの 2 組のオリエンテーションは 3 年次に持ち越すこととした。

② 青少年への啓発と啓発活動への参加

疎外されたコミュニティやムスリムコミュニティにある 5 校を選定し、8~10 年生 300 名に新生児・小児保健に関する啓発活動を実施した。学生たちは同コミュニティの保健医療従事者から絵入りパンフレットが配布され、新生児の危険症状や母乳育児、予防接種の重要性、患児が受診すべきタイミング等について学んだ。学生たちが学んだ知識を家庭や地域へ持ち帰り、コミュニティ全体の新生児・小児保健意識向上へ繋がることが期待される。

b. 母親グループの強化

昨年度および今年度に「活動 2-2 公的保健医療サービス提供者への技術支援」研修を受けた FCHV がファシリテーターを務め、担当地域の母親グループ会合で新生児・小児保健に関する情報を提供した。それぞれの FCHV が登録している保健医療施設の、保健医療従事者が FCHV の知識の定着やファシリテーションスキルを確認した。

新型コロナウイルスの影響から、本年度は 197 名の FCHV が 1980 名の母親たちへ出産の準備や施設出産の重要性、健常児及び病気の新生児のケア、在宅出産時の臍帯ケア用 CHX 使用、呼吸器感染症 (ARI) の徴候と症状、下痢による脱水を防ぐための家庭での対処法などについて説明した。他地域の母親グループの活性化は、3 年次に支援することとした。新型コロナウイルスへの過度の恐れや誤解から地域の母親グループ会合が止ってしまった地域がほとんどであったが、本活動を通してどのような感染対策を取れば少人数の集会が可能であるかを知

	ることができた、という声が聞かれた。 4-2： 大衆への啓発活動 ① ラジオ放送を通じた啓発 昨年度に引き続き、保健省が作成した CB-IMNCI 関連メッセージ（産前健診と施設分娩のすすめ、下痢や呼吸器感染症の治療法、家庭でのそれらの疾患への対処法に関する情報提供）をネパール語と、バンケ郡内で話者の多いタルー語とアワディ語に翻訳して放送した。特に郡内でも聴者の多いラジオ放送局を選定し、本年度はさらに新型コロナウイルス対策に関わるメッセージも放送した。各メッセージはいずれも 1 分前後であるが、住民がメッセージにより耳を傾けやすいよう、会話形式のメッセージや歌に合わせた形式のメッセージを採用した。1 日のうちでも聴者が特に多いとされている時間帯を計 4 回/日選び、事業期間中は毎日繰り返し住民へメッセージを届けた。 ② 新生児・小児ケアに関する啓発パンフレット、ポスター、バナーの作成 昨年度に設置した啓発バナーに加え、新たに 20 か所の区役所や警察署、人通りの多い交差点や通学路等に新生児必須ケアに関する啓発バナーあるいは患児が受診すべき危険な症状に関する啓発バナーを設置した。 加えて、昨年度同様に CB-IMNCI 関連のテーマ（CB-IMNCI サービスについて、予防接種、新生児必須ケア、カンガルーケア、患児が受診すべき危険な症状、新生児蘇生法等）を取り上げたポスターとパンフレット、さらに新型コロナウイルスと母乳栄養をテーマとしたパンフレット計 3200 部印刷し、郡内の公立保健医療施設へ配布した。また、保健省家庭福祉局とともに CB-IMNCI に関するニュースレターを編纂し、計 500 部バンケ郡を中心としたルンビニ州の母子保健関係者へ配布した。 ③ 保健に関する記念日のキャンペーン 「活動 4-1 コミュニティにおける啓発活動」にて参加した人々を中心とし、2020 年 11 月 11 日の世界肺炎の日、2020 年 11 月 18 日の世界未熟児の日、2020 年 12 月 5 日のネパール FCHV の日に合わせてキャンペーンを行った。新型コロナウイルス対策のために参加人数を大幅に減らし、参加者間のソーシャルディスタンスを保ちながら、プラカード等を作成してコミュニティを練り歩いた。
(3) 達成された成果	成果 1. 保健医療施設の整備 <u>適切に整備された施設（ヘルスポスト）数</u> カジュラ村にあるソンプール・ヘルスポストとナライナプル村のカトウクイヤ・ヘルスポスト併設の分娩関連施設の施設環境が、衛生面および安全面から整えられた。この 2 か所のヘルスポストの修繕は、1,981 名の 5 歳未満児と約 9,100 名の家族に裨益する。 <u>必要な医療資機材を備えた保健医療施設数</u> 昨年度と本年度を合わせ、バンケ郡内の 44 か所のヘルスポストおよび 3 か所のプライマリーヘルスケアセンター、1 か所の州病院に、新生児・小児保健医療サービスに必要な医療資機材が整備された。よって、施設レベルに応じた新生児・小児保健サービスの提供に必要とされる医療資機材が設置された。

これらの適切に整備された施設及び設置された資機材により、患者が適切な処置を受ける環境が整った。

成果 2. 保健サービス提供者の能力向上

コミュニティでの保健サービス提供者である FCHV や伝統的ヒーラー、公立及び民間保健医療従事者へ CB-IMNCI や栄養関連研修あるいはオリエンテーションを実施し、持続可能な開発目標 3 のターゲット 3.2 および 3.c の達成に貢献した。

FCHV による出産前の戸別訪問

保健省は、FCHV による妊婦への適切な産前戸別訪問を計 4 回としており、本年度事業実施前後の年間戸別訪問回数は、37,746 回（一人の FCHV につき年間平均 48 回）から 33,820 回（一人の FCHV につき年間平均 43 回）に減少した。新型コロナウイルス対策による行動規制と感染への恐れから、FCHV による訪問控えや妊産婦による訪問拒否があったと予測される。

FCHV による出産後の戸別訪問率

FCHV による出産後の母親と新生児への戸別訪問に関し、本年度事業実施前後の戸別訪問率は 5.8% から 5.7% と横ばいであった。

施設分娩件数は昨年度の 9563 件から 8910 件に減少しており、新型コロナウイルスの影響により自宅分娩が増えたことが予測される。

民間医療従事者から保健医療施設への紹介件数

本年度の研修に参加した民間医療従事者 29 名からの 5 歳未満患児の他保健医療施設への紹介率は、昨年は 10.4% であったが、2020 年 5 ～2021 年 2 月は 30.2% となった。

伝統的ヒーラーから保健医療施設への紹介件数

本事業の活動に参加した伝統的ヒーラーのうち 58 名への事業調査結果によると、68.7% の 5 歳未満患児が保健医療施設へ紹介されていた。なお、家庭でのケアで対処可能であると思われる軽症例であっても、多くの伝統的ヒーラーが「念のための保健医療施設での受診」をするよう保護者へ伝えていることが確認された。

成果 3. 保健施設の運営・能力向上

計 242 名の保健医療施設運営管理委員会メンバーや州管轄保健事務所と市町村保健部門の監督者、在庫管理者の人的資源と管理能力を高めるためのワークショップおよび研修を実施し、持続可能な開発目標 3 のターゲット 3.8 達成に貢献した。今後、保健施設が継続してより適切に運営されていくようになる。

保健施設運営組織の運営計画と実施：

本年度の保健医療施設運営組織の能力向上ワークショップにて 24 保健医療施設にて運営計画が策定された。本年度事業期間終了時まで、大半の保健医療施設にて改善策が取られたことが確認された。引き続き、運営計画の実施と進捗状況を確認していく。

成果 4. 住民の新生児・小児保健知識の向上

新生児・小児保健に関する啓発バナー、啓発ポスターやパンフレットを計 4521 部印刷し、さらにラジオを通して新生児・小児保健関連メッセージを毎日（2020 年 3 月 16 日～2021 年 3 月 15 日）4 回放送したことで、バンケ郡の住民（総人口 601,876 人）の家庭での療養行

	動や受診行動の改善が見られた。 <u>出産前第一回目健診受診者の割合</u> 昨年度事業終了時には 80.8%の妊産婦が保健医療施設での産前健診に 1 回以上訪れていたが、本年度では 94.5%の妊産婦が施設を訪問していたことが明らかとなった。新型コロナウイルス危機下にも関わらず、保健医療施設での産前健診を受けている妊産婦が増えており、コミュニティ内での母子保健意識の高まりが見られている。 <u>住民の FCHV への新生児・小児保健に関する相談</u> FCHV から報告された保健医療サービス提供記録によると、2～59 カ月児の急性呼吸器感染症の割合は事業実施前後で 35.1%から 28.2%に減少し、2～59 カ月児の下痢症の割合は 35.1%から 30.9%に減少した。コミュニティでの新生児・小児の急性呼吸器感染症および下痢症は減少傾向にあり、昨年度から継続されている地域での啓発活動の効果であると考えられる。 さらに、下痢症を罹患した 2～59 カ月児が経口補水液および亜鉛製剤を FCHV から受け取った割合も、事業実施前後で 95.7%から 99.6%に増加したことが確認されている。 <u>出産後ケアの受診者の割合</u> 昨年度に保健省の定める計 3 回の産後健診を受けた妊産婦は 24.5%であったが、本年度は 33.1%と増加が見られ、産後健診の重要性の認識の高まりが確認された。
(4) 持続発展性	昨年度に続いて、新生児・小児保健環境に関わるインフラ整備と、コミュニティにおける保健医療環境改善を担う FCHV 等の人材育成を通し、ハード面とソフト面でのさらなる改善を図った。新生児・小児保健サービス関連の運営管理能力向上も支援したことから、事業成果が継続されることを狙いとしており、持続性がより確保されるよう来年度にフォローアップをしていく。州レベル、中央レベルとの関係構築を促進し、バンケ郡まで予算配分やサプライチェーンを適切に維持管理されるよう働きかけを続けていく。 本年度事業期間中に修繕した 2 か所のヘルスポストでは、修繕施設を引き渡したそれぞれの地方自治体から、施設の維持管理を担うより積極的な姿勢を確認することができた。加えて、同じコミュニティに住み続ける FCHV の能力強化を支援し、特にその FCHV が新型コロナウイルス危機下であっても母親グループを活性化するまでを支援したことで、新生児・小児保健に関する知識や技術が地域に長く残るよう繋げた。 保健医療従事者と地域住民で構成される保健医療施設運営管理委員会の能力構築と強化を図り、バンケ郡内に住む人々の話す言語と適切なりテラシーレベルに合わせたラジオ放送や啓発教材を用いたことから、コミュニティ全体の新生児・小児保健環境改善が維持されることが期待される。